

## 「性別」は男女の二通りだけ？

みなさんはLGBTという言葉を知っていますか。「LGBT」はL:レズビアン(女性の同性愛者)、G:ゲイ(男性の同性愛者)、B:バイセクシャル(両性愛者)、T:トランスジェンダー(「からだの性」と「こころの性」が一致しない人)といった性的マイノリティのそれぞれの頭文字をとった総称です。この

性的マイノリティの人々は日本国内で約7.6% (※)、13人に1人といわれています。

今回は、自身がトランスジェンダー当事者である、佐野恒祐さんの話を伺いながら、多様な性について考えていきたいと思います。

※電通ダイバーシティラボ2015年度調査より

男の人を好きになったり  
女の人を好きになったり

同性の女性が好き

体は女で生まれたけれど  
自分は男の子だと思う

体は男女のどちらかあいまい  
自分は男だと思っている



からだの性…男  
こころの性…男  
好きの性…男女



からだの性…女  
こころの性…女  
好きの性…女



からだの性…女  
こころの性…男  
好きの性…女



からだの性…わからない  
こころの性…男  
好きの性…女

## 自分自身に違和感

幼少期から、周りの友達や社会との「違い」を感じさせられ、自分の身体や欲しいと思う持ち物など自分自身の「性」に違和感を持っている人々がいます。そして、その違和感から「違い」を隠さなけれ

ばという意識になり、自分自身を否定してしまうことも少なくありません。また、学齢期には、学校生活のさまざまな場面で、不安を感じたり、悩んでしまったりすることもあります。



佐野恒祐さん

多くのLGBT当事者は、自らのセクシャリティーを思春期までに自覚していると思います。私が学生の頃は、今の時代のようにネットによる情報もなく、自分で調べることもできず、自分でも「ハッキリしない違和感」を誰にも相談する事はなかった、というよりできなかったです。周囲にずっと嘘を付いているような感覚で生きていました。制服のことや、健康診断・宿泊学習などの行事があるときや、休み時間の友達との他愛もない恋愛話でも「自分って何者?」と「自分自身に違和感」を持ち、その悩みを隠すように明るく元気に振る舞う自分がいました。

## あんたは、あんたでいいやん!

悩んでいるときに分かってくれる仲間存在は、勇気をもらえます。佐野さんも友達から言っても

らったある一言が、悩んでいた気持ちを楽にさせてくれたそうです。

私が友達に初めて「ハッキリしない違和感」を打ち明けたのは19歳の時でした。「男とか女とかでなく、あんたはあんたでいいやん。グレーでもいいやん!」友達が言ってくれたこの一言で、気持ちが楽になりました。そして自分らしい生き方をする勇気をもらい、数少ない情報を集めながら男性ホルモン治療などを始め、戸籍上も男性として生きていくことを決めました。手術後、麻酔から覚めた時、そして、家庭裁判所から性別変更許可通知が来た時には「男性として生きてもいいんだ!」と、ようやく自分の人生のスタートを切れた感覚で、うれし泣きしたことを覚えています。

